


別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	第4回 千種生活圏の拠点づくり検討委員会	
開 催 日 時	平成29年11月7日（火）18時00分～20時00分	
開 催 場 所	センターちくさ 3階中ホール	
議長（委員長・会長） 氏 名	船曳順市	
委 員 氏 名	（出席者） 船曳順市、亀井欣也、藤原隆、鳥居薫、波多野好則、 猶原一典、金本まみ、金本己世始、鳥羽敏美、清水 一女、杉本千里、井岡陽子、磯崎伸彦、奥田慎一	（欠席者） 森井俊二
事 務 局 氏 名	宍粟市 企画総務部：坂根部長、上長次長 千種市民局：幸福局長、清水副局長、村上副課長 地域創生課：山本課長、原係長、前田主査	
傍 聴 人 数	1名	
会議の公開・非公開の 区 分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開・非公開	（非公開の理由）
決 定 事 項	（議題及び決定事項） 1 開 会 2 あいさつ 3 協議事項 (1) 前回議事録の確認について (2) ワークシートの整理について (3) 【参考資料】生涯活躍のまち（CCRC）に関する視察調査の報告 について (4) 【講話】地域福祉の現状について (5) ワークショップ 【テーマ】生活圏の拠点に必要なもの 4 そ の 他 5 閉 会 ■ 次回開催予定 平成29年12月5日（火） 午後6時から	
会 議 経 過	別紙のとおり	
会 議 資 料 等	別紙のとおり	
議 事 録 の 確 認 （記名押印）	（委員長等） 	

(会議の経過)

発言者	議題・発言内容
清水副局長	1 開 会
委員長	2 あいさつ
委員長	10月22日に千種ふれあいフェスタを計画していましたが台風で中止になってしまいました。翌週28・29日には兵庫県の西播磨ふれあいフェスティバルがあり、こちらは台風の中でも開催され、鷹巣自治会から芸能祭の活動紹介があり、西播磨での活躍を嬉しく思いました。このところ、テレビでは悪いニュースが多く心苦しいですが、私たちの地域では、少しでもよい拠点づくりやまちづくりを進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。
委員長	3 協議事項
事務局	(1) 前回協議の確認について ➤ 事務局より第3回会議録の説明
委員長	会議録について意見がありましたらお願いします。 — 意見なし —
事務局	(2) ワークシートの整理について ➤ 事務局より委員の意見を整理したワークシートについて説明
事務局	(3) 【参考資料】生涯活躍のまち（CCRC）に関する視察調査の報告について ➤ 拠点づくりの参考として、社会福祉法人佛子園が取組む“ごちゃまぜのコミュニティ”「シェア金沢（金沢市）」、「輪島カブーレ（輪島市）」の取組動画を視聴
講師	(4) 【講話】地域福祉の現状について 演題：だれもが安心して暮らせるふくしのまちづくり 講師：宍粟市社会福祉協議会 生活支援コーディネーター 森井裕矢 氏 ◆福祉指標からみる千種町の現状 ・千種町では、高齢化率が毎年1%以上増加しており、高齢化率が40%に近づいている。また、男性は団塊世代の人口が最も多くなっているが、女性は80代が多く、子どもや20、30代が少ない状況にある。 ・千種町の人口はこの5年間で450人減少しているが、市全体では世帯数

	<p>が増加している。千種町や波賀町から山崎町に移住する方も多く、単身世帯や夫婦のみの世帯が増えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団塊世代が 75 歳を迎える 2025 年には、宍粟市の人口は 33,600 人ほどになると見込まれており、市全体の高齢化率が 37%、後期高齢者が 20%を超える予想となっている。 ・空き家や介護保険の認定者も年々増加している状況にある。 ・認知症が要介護認定の大きな要因となっており、約 1,000 人が介護負担の大きな「動ける認知症」の方で、介護に関わる家族も高齢化する中、家族への支援は急務。 <p>◆介護保険制度の改正</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000 年に介護保険制度が始まり、介護保険の認定者を社会全体で支える仕組みが作られた。 ・2015 年の介護保険制度の改正により、特別養護老人ホームへの入所要件が要介護 3 以上となり、要支援 1・2 の訪問介護・通所介護は、介護予防給付から地域支援事業に改正（国から地方自治体の裁量・責任に）。 ・介護事業者が提供していたサービスに互助という住民の助け合いの概念を取入れ、住民自身が要支援 1・2 の方にサービスを提供することになる。そのため、地域住民の支えあいやつながりの再構築が必要とされている。 ・住民同士の声かけや、おすそ分け、買い物やゴミだしの手伝い、気軽に寄れる集いの場づくりなど、要支援 1・2 の方が介護サービスを利用されていたところを、地域の中でできる範囲で支えあう関係をつくるのがつながりの再構築。 ・地域で住民同士のつながりの再構築を進めていく上でのサポートとして、市役所で 1 名、社会福祉協議会で 2 名の生活支援コーディネーターが配置されている。地域の中で話合う場をつくりながら、取組を進めている。 ・団塊世代が 75 歳を迎える 2025 年には、介護・医療の負担が大きくなり、認知症の方の増加や単身世帯の増加が予想される。介護保険制度がもたなくなる可能性があるため、介護保険制度が改正された。 ・2025 年には 3 人に 1 人が 65 歳以上、5 人に 1 人が 75 歳以上となり、その状態が 50 年続いていく。今から生まれてくる子どもが大人になるまで続いていく問題なので、子どもたちが地域の中でどう関わっていくかが重要となる。 ・公的機関の役割として、2025 年までに高齢者が自立して自分らしく地域の中で可能な限り生活できる支援体制（地域包括ケアシステム）をつくっていく。 ・医療や介護、福祉と連携しながら、生活基盤である隣同士の支えあいで住みやすい地域づくりを進め、介護予防事業も生活支援コーディネータ
--	--

	<p>一が支援していく。支えあいや介護予防など順調にできるようになると、先ほどの動画で紹介されていたシェア金沢のような取組みが、千種町にあった形でできるようになってくると思う。</p> <p>◆社会福祉協議会の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉協議会では、地域づくりのために見守りや支えあい活動、災害に備えた取組み、いきいき 100 歳体操やサロン・喫茶など気軽に集える居場所づくり、学校や地域での福祉学習の実施、ボランティアセンター充実や NPO 活動との連携などを通じて新たな生活福祉の課題に取り組んでいる。 ・個別支援として、金銭管理の支援や専門機関と連携した相談事業の実施、新たな支えあいの仕組みづくりのために生活支援コーディネーターが地域といろいろな福祉サービスを発見したり、今あるサービスの見える化を図っている。また、結婚相談、配食サービス、健康と仲間づくりのためのミニデイサービスの実施のほか、介護保険制度上の介護・福祉サービス事業を実施している。 ・社会福祉協議会では、福祉の側から地域づくりを進めており、人と人のつながりや居場所づくりなど様々な形で進めている。拠点の要素として入っていくことで、現在の千種町の状況にあった福祉が拠点づくりに入っていけるきっかけになると思う。
委員	<p>今回は介護保険制度の話でしたが、実際には、生活困窮者の自立支援法、障害者の差別解消法など様々なケースがあり、拠点の在り方に関係してくると思います。社会福祉協議会の取組みも拠点づくりの意見にいくつか入ってくるところもあるかと思います。地域づくりの中で福祉は大切な位置付けで、最終的にはそこに住まれている方をどう支えていくのかということになると思いますので、地域全体の課題として考えていただければと思います。</p>
全委員	<p>(5) ワークショップ 【テーマ】生活圏の拠点に必要なもの</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 3 班に分かれてワークショップを実施（次回に継続） <p>6 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 12 月に視察を予定。次回の委員会でお知らせする。 ➤ 次回開催予定 12 月 5 日（火） 午後 6 時から
副委員長	<p>7 閉会</p>